

殺菌剤

協友

スターナ® 水和剤

オキシリニック酸…………… 20.0%

補助成分：

ポリ(オキシエチレン)ノニルフェニルエーテル
(PRTR・1種)…………… 3.0%以下

種類名／オキシリニック酸水和剤

登録番号／第21735号

毒性／普通物*

有効年限／4年

包装／100g×100、500g×20

特 長

- 本剤は有機合成による細菌病専用防除剤で、既存剤とは異なる作用性を持つ化合物です。
- 稲のみみ枯細菌病、褐条病、苗立枯細菌病、葉鞘褐変病、内穎褐変病や園芸作物の軟腐病等に対して効果を発揮します。
- 基本作用性は病原細菌の増殖抑制効果です。

適用病害と使用法

使用にあたっては必ずラベルを読んで下さい。

作物名	適用病害名	希釈倍数	使用液量	使用時期	総使用回数*	使用方法	
稲	のみみ枯細菌病 苗立枯細菌病 褐条病	20倍	—	浸種前	本剤 1回 オキシリニック酸剤 3回 〔種もみへの処理は 1回、は種後は2回〕	10分間 種子浸漬	
		7.5倍	乾燥種粉 1kg当り 30ml	浸種後		吹き付け処理 (種子消毒機 使用)又は 塗沫処理	
	のみみ枯細菌病	400倍	—	浸種前		24時間 種子浸漬	
		400～800倍				48～72時間 種子浸漬	
		200倍				5～24時間 種子浸漬	
	苗立枯細菌病 褐条病	乾燥種子重量の 0.3～0.5%	—	浸種後		5時間 種子浸漬	
	のみみ枯細菌病					24時間 種子浸漬	
	苗立枯細菌病 褐条病					種子粉衣 (湿粉衣)	
	のみみ枯細菌病 葉鞘褐変病 内穎褐変病	乾燥種子重量の 0.5%	60～150ℓ /10a	穂ばらみ初期 ～乳熟期 但し、 収穫21日前 まで		本剤 2回 オキシリニック酸剤 3回 〔種もみへの処理は 1回、は種後は2回〕	散布
	なし	枝枯細菌病	200～700ℓ /10a	収穫45日前 まで		3回	
もも ネクタリン	せん孔細菌病	収穫7日前 まで					
小粒核果類 (すももを除く)	かいよう病						
すもも	黒斑病						
キャベツ はくさい	軟腐病 黒斑細菌病	100～300ℓ /10a					

作物名	適用病害名	希釈倍数	使用液量	使用時期	総使用回数*	使用方法			
だいこん	軟腐病	1000倍	100～300 ℓ /10a	収穫14日前まで	5回	散布			
ブロッコリー	軟腐病 黒斑細菌病	2000倍			収穫前日まで		2回		
カリフラワー	軟腐病			収穫7日前まで			3回		
はなっこりー							5回		
ピーマン								本剤 5回 オキシリニック酸剤 5回 【種いも浸漬は1回】	
ねぎ	1000倍	収穫14日前まで		本剤 5回 オキシリニック酸剤 6回 【種いもへの吹き付けは1回 植付後は5回】	5回				
たまねぎ					30～100倍		種いも 1m ² 当り 150mℓ	植付前	本剤 1回 オキシリニック酸剤 6回 【種いもへの吹き付けは1回 植付後は5回】
ばれいしょ									
こんにゃく	腐敗病	30～100倍		種いも 1m ² 当り 150mℓ	植付前		本剤 1回 オキシリニック酸剤 6回 【種いもへの吹き付けは1回 植付後は5回】	種いも 吹き付け処理	
レタス	軟腐病 腐敗病 斑点細菌病	2000倍		100～300 ℓ /10a	収穫7日前まで		2回	散布	
非結球レタス	軟腐病 腐敗病		収穫14日前まで		3回				
エンダイブ	軟腐病					収穫前日まで	2回		
セルリー									軟腐細菌病
パセリ	1000倍		100～500 ℓ /10a		収穫前日まで	2回			
ズッキーニ							軟腐病		1000倍
にんじん	2000倍		100～300 ℓ /10a		収穫前日まで	2回			
チンゲンサイ							1000倍		1000倍
アスパラガス	2000倍		2000倍		—	5回			
らっきょう							1000倍		1000倍
さんとうさい	1000倍	1000倍	—	5回					
きく					斑点細菌病	1000倍	—	—	5回
カラー	軟腐病	30倍	球根100kg 当り1～3ℓ	定植前	1回	球根吹き付け 処理			
たばこ	空洞病	1000～1500倍	25～180 ℓ /10a	収穫10日前まで	2回	散布			

上手な使い方

【園芸作物】

- 実用場面では病勢が進展してから散布では効果（治療の効果）は期待できないので、作物の生育ステージと気象条件をみながら、発病前からの散布（予防的防除）を徹底してください。

- 第1回散布後は作物毎の使用回数および日数と残効性を考慮し、1週間間隔の散布を基本とします。ただし、病勢進展が早ければ、早め早めの散布を心がけてください。
 - 一般的には本剤のみの防除に頼るのではなく、他に有効薬剤があればそれも活用することが望めます。
- 【水稻の種子消毒および茎葉散布】**
- 細菌性病害は、発生をみてからの防除では手遅れとなることが多いので、予防的散布が必須です。
 - 種子消毒では、適切な育苗管理（高温・多湿をさける等）が基本であり、スターナを種籾に十分付着させてください。
 - スターナの種子消毒には粉衣、浸漬および塗沫処理の3通りがあります。また、浸漬処理では乾籾浸漬処理と浸種後浸漬処理いずれも可能です。
 - 本田散布において
 - ①もみ枯細菌病、内穎褐変病防除適期は出穂期（出穂率40%～50%）前後の計10日以内に1～2回とし、1回の場合は出穂期またはその直前を目標としてください。
 - ②葉鞘褐変病では、止葉抽出始め直前と出穂始～出穂期の2回を防除目標としてください。

使用にあたって

■使用上の注意

- 使用量に合わせ薬液を調製し、使いきってください。
- 浸漬処理の場合は、籾と薬液の容量比は1:1以上とし、種籾はサラン網など粗目の袋を用い、薬液処理時によくゆすってください。
- 長時間浸漬の場合は、浸漬処理中に1～2回攪拌してください。
- 粉衣処理は付着をよくするため、湿粉衣としてください。
- 薬液処理した種籾は、風乾後、水洗いせずに浸種してください。
- 消毒後の浸種は水槽で行い、水の交換は原則として初めの2日間は行わないでください。その後水を換える場合は静かに行ってください。
- 籾に吹き付け処理する場合、種子消毒機を使用し、種籾に均一に付着させて乾燥してください。また、塗沫処理の場合は、適当な容器内で種籾を攪拌しながら、薬液を滴下するなどして、種籾に均一に付着させてください。
- カラーに吹き付け処理する場合、噴霧器を使用し、球根全体に薬液を付着させてください。また、薬剤処理後、風乾してから球根を定植してください。
- 野菜類の細菌病に使用する場合、多発条件下では効果が劣る例もみられるので注意してください。
- 適用作物群に属する作物またはその新品種に本剤を初めて使用する場合には、使用者の責任において事前に薬害の有無を十分確認してから使用してください。
- 本剤の使用に当っては、使用量、使用時期、使用方法などを誤らないように注意し、特に初めて使用する場合には、病害虫防除所等関係機関の指導を受けることが望ましいです。

■安全使用上の注意

- 誤飲、誤食などのないように注意してください。誤って飲み込んだ場合には吐き出させ、直ちに医師の手当てを受けさせてください。本剤使用中に身体に異常を感じた場合には直ちに医師の手当てを受けてください。
- 本剤は眼に対して弱い刺激性があるので眼に入らないように注意してください。眼に入った場合には直ちに水洗してください。



- 使用の際は農業用マスク、不浸透性手袋、長ズボン・長袖の作業衣などを着用してください。また、散布液を吸い込んだり浴びたりしないように注意し、作業後は手足、顔などを石けんでよく洗い、うがいをしてください。

■貯蔵上の注意

- 密封し、直射日光をさけ、食品と区別してなるべく低温で乾燥した場所に保管してください。